

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270301534		
法人名	株式会社 河原木電業		
事業所名	グループホーム 智水寮		
所在地	〒031-0801 青森県八戸市江陽2丁目18番8号		
自己評価作成日	平成26年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成26年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>外出機会を多く設け(ドライブや農(脳)作業等)、入居者様の活動の幅を広げることで、メリハリのある生活環境を提供できるようにしています。また、可能な限り個別性を大切にし、個々の機能維持・向上を目指すとともに、新たな喜びを見いだせる様に支援を行っています。入居者様が感情(喜怒哀楽)を表出でき、入居者様・職員が笑って楽しく過ごせるよう、日々取り組んでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>「基本的人権の尊重、自己・潜在能力の活用と支援」を基本理念に掲げ、入居者が生き生き生活できるように常に入居者の立場に立ったケアを模索、追及し、職員全員で創意工夫しながら支援に努めている。行事等で、入居者・家族、職員の交流が図られ双方向の関係が築かれている。また、地域支援事業の長年の継続にも努めている。日々の生活の中に、生活機能訓練やレクリエーションも取り入れ、本人が楽しく自発的な活動につながるように職員は支援している。また、医療機関との連携を図り、入居者やご家族の意向を汲み取りながら、終末期ケアへの実践に取り組んでおり、信頼関係構築に努めている。事業所内には犬を飼っており、入居者の癒しにつながっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、基本理念を唱和し理念を共有・再確認することで、その実践に繋げている。	基本理念を唱和するだけでなく、意味を噛み砕いて職員への理解を促している。入居者の主体性を尊重し、自由な空間を提供するという実践に取り組み、入居者の希望に添う暮らしの実現ができるよう取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域還元事業活動として定期的な町内清掃の実施や地域の防災訓練への参加、近隣保育園との交流を行っている。	地域還元事業活動として、毎月の目標が掲げられておりごみ集めや、落ち葉拾い等、地域の一員としての役割がある。また昨年からの取り組みとして地域の防災訓練への参加も行われており、事業所として積極的な交流姿勢に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトがおり、サポーター養成講座の開催や認知症フォーラムへの参加推進、地域住民からの相談対応、他施設の紹介を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・市職員・民生委員・町内会長に参加していただき、意見情報交換を行いサービス向上に活かしている。	運営推進会議に参加しやすい時間設定を考慮し、ご家族、地域住民及び市役所担当職員への参加を呼びかけている。会議では、事業所からの報告の他に、参加者からの意見を取り入れ行事等に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課との懇談会への参加や運営推進会議等にて事業所の取り組みを伝え、協力関係の構築に取り組んでいる。	日ごろより、質問や相談等があれば、市役所へ足を運び、担当者との協議を行っている。事業所から積極的に、相談しやすい関係構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の為、夜間のみ玄関の施錠は行っているがそれ以外は開放している。また、内部勉強会を実施しながら拘束のないケアに取り組んでいる。	年2～3回は内部及び外部研修にて勉強を重ねている。拘束をしないケアの実現の為に、できるだけ付き添うことを基本とし、言葉やケアの対応が拘束につながらないように現場で助言し改善できるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部勉強会を実施し、ケアの振り返りをする中で虐待が見過ごされることの無いように注意し、防止に努めている。虐待困難事例ネットワークの研修会の参加。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して学ぶ機会を設け、制度の必要性を理解すると共に、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設見学や事前説明を行い、契約に関して理解を深め、十分な納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や随時電話連絡にて意見要望をいただき、また、苦情要望受付書を設置活用し、運営に反映させている。	入居者からの意見を聞き、ケアに反映させることは日々の取り組みとしてできている。また、家族からは悩み相談を受け、家族と入居者との関係性の再構築に努めている。意見や要望があった際、5日以内に、解決策や対応策が検討されるようになっており、サービスの質の向上につとめる姿勢がみられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や申し送りのほか、随時、意見や提案を検討する機会を設けている。	入居者に対するケアの向上の為に必要な意見や、職員が働きやすい職場環境になるようにするための意見を積極的に聞き、取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に合わせスキルアップ(資格取得)をすすめると共に、残業時間短縮への取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの能力を把握し、外部研修への参加や内部研修会を担当制で実施する等、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八戸グループホーム協議会の交流会や他施設行事への参加を通して、同業者とのネットワークを築くと共に情報交換を行い、サービスの質向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人主体のアセスメントを行い、安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とコミュニケーションを密に取り、サービスに関する説明報告を十分に行い信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族様の必要としているサービスを見極め、他のサービス利用も視野に入れた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などの共同作業を通じ、同じ生活者としての目線を持ち、ご本人を尊重した対応に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人・ご家族様との橋渡しとして関わりながら、協力してご本人を支援していけるように関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係を継続できるよう、ご家族と協力しながら外出支援等を行っている。	入居者ご本人の希望により、親戚の方にお問い合わせに行ったり、知人の方に来てもらう等、ご家族の協力を得ながら取り組んでいる。又、お盆やお彼岸の外出支援等も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間を取り持ちながら、利用者同士が自発的な関わりを持ち、支え合える関係を作れるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向や希望の把握に努め、本人本意に検討し、生活に活かせるように努めている。	毎日の日課を決めていない為、それぞれが自由にその日の気分で生活している。職員は、ご本人の希望を聞き取り、可能な限り実現できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集を密に行い、これまでの暮らしを把握しサービスに反映させるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を把握し、日々の観察を通して現状を的確に判断できるように努めている。また、新たな能力が発見できるように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、他関係者と話し合いアイデアやニーズに即した介護計画を作成している。	最低3ヶ月に1回は介護計画を作成しているが、毎月全職員にて介護計画の再検討を行っている。ご本人のニーズに迅速に対応できるような介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送り、会議において情報を共有し介護計画や実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、変化するニーズに柔軟に対応すると共に、ご本人やご家族の状況に応じた新たなサービスを展開できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのかかわりや還元事業を通して、ご本人が心身の力を発揮できるよう支援している。また、事業所においても畑作業等提供し、その増進に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望される医療機関への往診や通院を支援している。	入居前からのかかりつけ医への受診を継続している。病院によっては往診対応も行ってくれ、ご本人はもちろんだが、職員の安心につながっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が配置されており、必要に応じて対応できるよう情報を共有し協働で支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人が安心して治療を受けられるように医療機関との連絡を密にとり、早期退院に向けた取り組みに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来ることをご本人、ご家族と十分に話し合い、サービスを明確にすると共にチームでの支援に取り組んでいる。	現在の入居者のほぼ100%が事業所での看取りを希望している。必要な時期に、ご家族を含め、面談を重ねて取り組んでいる実績がある。医療との連携も構築されており、職員全員で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル勉強会・普通救命講習会への参加を通して、実践力を身につけている。また、AEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル訓練、実践を通して対応方法を身につけている。また、近隣への協力体制の構築に努めている。	津波・火災・地震等のマニュアルを作成し訓練を行い、本社及び隣接会社職員の協力も得られている。津波時等には、系列ホテルへ避難した実績があり、非常用持ち出し物品も用意しており、入居者の安全確保できる体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格とプライバシーを確保し誇りやプライバシーを損ねないように、本人本意な対応を行っている。	入居者へ感謝の気持ちを言葉で伝えるように取り組んでおり、日常的にも丁寧な言葉かけを心がけている。排泄等の際にも本人の人格を尊重した配慮や気遣いが感じられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現できる環境、関係づくりに努め、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや希望を尊重し、思い思いの時間を過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分らしさを表現できるようにその人の好みに応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、彩や季節感のある食材を取り入れ調理の工夫をし、一緒に準備片付けを行っている。	個々の嗜好に合わせた味付けの対応を行い、目でも楽しめる食事になるよう工夫されている。入居者の得意分野での活躍を促すように取り組まれており、職員の見守りのもと、準備、片付け、調理等を担ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量に気を付け調理の工夫をし、バランスを保てるように支援している。摂取量の不足時は補食や経口栄養剤をすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にご本人の状態に合わせ、口腔ケアを行い清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの習慣、状況を把握し、排泄の自立に向けた支援を行っている。	可能な限り、ポータブルトイレや尿器に頼らないでトイレでの排泄の自立を支援している。排泄のチェック表を元に、本人の排泄シグナルを見逃さないように、また本人の自尊心を損ねないように配慮しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の調整や乳製品の提供等、食物の工夫をし予防や改善に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	ご本人の希望やタイミングに合わせた入浴を支援している。入浴日はあらかじめ設定されているが、希望時はいつでも対応出来る様になっている。	入浴日以外でも、ご本人の希望により入浴支援(お風呂やシャワー浴)が行われている。また、入浴日以外の夕方には、足浴を行い、みんなの憩いの時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望や状況に応じて小上がりやソファ等好きな場所で安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関する情報を把握し、効用や食事制限等について説明し、ご本人の状態変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの特技や好みを活かした家事やレクリエーション、行事の参加を勧めている。特に女性の利用者様が多いので、家事作業は活発に参加されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に応じて外出の機会を設け支援している。また、ご家族の協力も得ながら行っている。	毎日の日課は決めていないが、天気やその日の気分で、畑での農作業や、ドライブ、等本人の希望により外出支援を行っている。また、遠足等の行事には、ご家族への参加も呼びかけており、家族一体となってご本人を支えている様子が伺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望、能力に応じて金銭の管理や使用を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じ、自由に連絡出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感の感じられる装飾品を飾り、居心地良く過ごせるように工夫をしている。施設内は全てエアコンを設置し、冷暖房を完備している。	共用空間は明るく、入居者の過ごしやすい温度設定となっている。ソファや畳の小上がりも用意されており、思い思いの場所で過ごす事ができるようになっている。掲示物も入居者にとって目につきやすい表示を心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がり、ベンチ、ソファ等思い思いの場所で過ごしていただける様、スペースを設け工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自由に装飾をしたり、馴染みの家具を持ち込んだり、居心地の良い空間づくりを行っている。	ご本人が居心地がいい空間とは何かを入居者と共に考え、家具類の配置や飾りつけに工夫している。入居者は馴染みの品々に囲まれて生活されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内部の共有空間以外にも、ご本人の希望や能力に応じて設備設置がされている。		